



平成 23 年 8 月 11 日

「原子力安全」調査専門委員会
第 5 回放射線影響分科会会合議事録

平成 23 年 8 月 9 日 13 : 00 から第 5 回放射線影響分科会を開催した。議論された主な内容は以下のとおりである。

- (1) 今回分科会までの活動状況について (HP 掲載解説記事等について)、
- (2) 大気拡散状況について
- (3) 今後開催されるシンポジウムについて、
- (4) 緊急時対応のあり方としての教訓について、
- (5) 放射線測定関連の解説について

(1) では、前回会合において提案のあった放射線影響分科会関連の HP 掲載記事の改定を進めていたが、作業が終了し、日本語版及び英語版ともに更新済みであるとの報告があった。

(2) では、環境 (大気) の放射能分布について、原子力学会あてに大気中に放出された放射性物質が上空を通過した時期等について質問があったことから、計算による大気拡散状況の推定結果について議論し、推定結果については近日中に学会 HP 解説として掲載することとなった。

(3) では、9 月 19 日に開催される原子力学会の特別シンポジウム (一般公開)、10 月に原子力学会等、複数学会で共催が予定されている国際シンポジウム等について説明があった。原子力学会の特別シンポジウムでは、放射線影響分科会として、①環境モニタリング状況 (環境中の放射能分布)、②被ばく線量評価状況、及び、③放射線計測に関する課題の 3 テーマについて講演することとなった。指定発言者については至急、調整することとなった。

(4) では、緊急時対応のあり方についての教訓として取り上げるべき事項について紹介があった。国の事故調査・検証委員会の動きも考慮しつつ、早急に分科会の各委員からの意見を集約、分科会としての考えを取りまとめ、提言する必要があるとの結論に至った。

(5) では、前回の分科会において放射線計測についての簡単な解説を HP に挙げておく必要があるとの議論がなされたが、現時点ではこうした情報も提供されるようになり初期段階の混乱も徐々に収まりつつあることから、今後は、比較的詳細な解説を学会誌あるいは HP に掲載することとなった。一方、一般の方々に対しては、放射線を測定するにあたっての注意点についての簡単な解説のみを HP に早急に掲載することとした。

以上